源氏物語

特別
へ5
6576
4

寛文九年八月廿日

宝福寺文庫

絵河

林氏
宗春

心なき人の略立狩乃羽衣重ねて
月ぞ千ゆ敷領乃出来
錦扇紅白の菓あてて
小書ものうつも秋風吹
蛙鈴ぞ弱義ものうつの
我ぞ色蓋ぞ成まして蛍
樓船小異中をゆきあさ
引うもる氏の味を美也

〈96-145〉

山塚のそなたく遠き蘆の葉
潮波乃こゑ〳〵後る二人孫
芦荻も枯もとまるとまるとまるとまるとまる
御見物中黒
稲乃穂と共に黒
なる朝雪小雪とふぬる
末石浮流の藝
精出奉公
乾毛たら〳〵
義兵衛
陸奥紙の波〳〵
西の流も
まま姫こせも
新屋伯

庭風も吹春風も窓の
雪の白花
咲花
菓子ハ
膝元
日蔵
産行
七夕
月ハ
明日
石造
皇居

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の庚戌[illegible]風雲[illegible]二人[illegible]

[illegible]新[illegible]空天[illegible]雲乃[illegible]

[illegible]枝[illegible]紙[illegible]法[illegible]

いたゝ[illegible]の我[illegible]青菜乃[illegible]

刀[illegible]

[illegible]我[illegible]

[illegible]書の[illegible]

秋乃[illegible]

[illegible]

[illegible]書乃如

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]乃出[illegible]七十五日

初[illegible]

[illegible]

[illegible]我[illegible]

血判の[illegible]

[illegible]世[illegible]

男[illegible]

[illegible]の新[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何[illegible]

[illegible]

胡蝶乃ゝを迎ふるかの陳地
ゆめ[illegible]の[illegible]の[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
苔[illegible]の[illegible]
馬[illegible]田むろふ[illegible]
いさとめんゝせまゝ[illegible]
盒ふ[illegible]
素燭や月[illegible]
[illegible]
氏人の[illegible]
今一ゝ[illegible]三[illegible]
[illegible]や勝ふ乃[illegible]
[illegible]

乃[illegible]
[illegible]
う[illegible]蕨[illegible]
胡麻よ[illegible]
灯や不[illegible]
余[illegible]
[illegible]
う[illegible]
[illegible]
[illegible]
明[illegible]
いな[illegible]
[illegible]
小[illegible]

三ウ

桑糧や稗よ粟菜る里の長
市ゑ出ゑて落加里ふ蔵
小風の音ふ聞ゆも時雨く
山深ゑ弱き書ふいとふ
音ふ人ゑ山ゑ知ゑ里ゑて
秋生ゑや時ふ出ゑ
那須野なる石ふ二川よ里ふ抽
篠乃ゑ山ゑや実ゑ秋ゑ新の家
里ゑ人ゑ雪ゑ切ゑる物語
ゑゑ奥あゑ今日ゑ浅田抽
狂ゑ里ゑ原深里ふ成次第
ゑゑ人ゑ主ゑ乃稲ゑ川
月ゑ渡深花ゑ千年時ふ
望ゑ菊ふ人ゑ

晴ゑ毛ゑ加へるや雲ゑ里
あゑゑゑ出乃ゑ山ゑ川ふ
流ゑ雲ふの雲ふ雲ゑ雲ふ
百ゑ歩ふ人ゑ老ゑ渇作
一ゑの行ゑ実ゑる室乃ゑ
蕎油乃麹花ゑ深ゑ新
蝿ゑ里ゑ花ふ人ゑ憎里
乃ゑ深ゑ実ゑふ数ゑ人ゑ
ゆゑ道ゑ出ゑ月ゑ
ゑゑ有馬ゑ
蓑ゑ加ゑ
聖ゑ作ゑ記ゑ
紙ゑ作ゑ
雲ゑ一別地ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雉を誘ひ出さんとて
志の小車乃井くゝの事
流れ出るとゝ
連ねて出るうらゝ
晴れ渡る日和の頃を此所の
いとゝ
物ゝかなと東
出る庵乃月ゝ立よりてうん
乃庵より幸流とまり八木乃
見を
祈もゝ
ゝとゝ
あふ乃いくゝ
夢あ此まくらい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新田毛作をつくる山乃陰
[illegible]や葉茨の内
[illegible]の声くも落櫻
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石神の事ゆゑ物語の事
物語くいへく事ばなるもむる
逢日をそん言を法くるを事をよ
まに瓜を動の名もさをれて
さのゆるハ社ゆるる旅たらく
うまれ河むを庚寅七二人孫
時を不彩ひ事ゆ事ひ
御殿ゆ事世乃元也
目乃茶七縄乃学ひハ
面を恵法ふる窓の月名
和尚音ふ吹おく山氣
書ゆへ庚も笛ハ法ゆ
茶ゆハ自論我ハ感次
ゆまを元を又ゆを道

嘆息を日毛ゆ力弱ゆ
ゆを酔ゆ
を御殿ゆ光ゆ
ゆ手ゆすゆ
ゆを猫を
ゆを蔵ゆ声
ゆ書戸ゆ
庚対を弱ハ無ハ
弱ゆを世紙ハ
ハ苦ハを
物ゆ法ゆ
ゆを月ゆ
月を世ゆ破車七我
を中ゆ高ゆの

ゑやうる洞の庵よりやうふ
いまゝなるそぬ児の岑入
緑此を望く紅葉を乃
夕日くまなき春かな
指引の改時志かと定まりて
秋ゝる望てる人のあまり
多自ゆゝ河るもいとふもの陰
家居ひらゝて乃春

対雪五十句

此内長十五

洲潛にのやうく事を聞
乃葉ゆゝ紅くゝ冬の
寒我乃ゝ色は持墓
さゝ合碁のうゝ
志ゝ
自朋之ゆゝ
ゆゝ人ゝ
めゝ
ゝ
志ゝ
ゝ
ゝ

一種なる花を採出せるを美のてん
をとゝ称せる牡丹は花王なる
いへる事ゝ嘉の業なりんとて
なほ〳〵むくげは田舎男の
ふとりて花はなの今やう深き
やうなるは桃の花あるいはん
る鳥呼まふ山里とゝるる
ふ山里無を強の唐法ともも
ふぬなるに強の唐法ともも
むるくと引出て半丸角先
亭原白毛ゝ法ぶるのけて
玉嶽水に至行ゝ山アゝ華
所ふ重たのゝひ法ふ
充満ゝ花半ゝ

寛文七年八月十一日

多久氏
獨鈴子

進呈

孫ん佛果の孫栽堂の長
池毛は第ゝとゆゝ乃跡
歳日此茶乃岩組系ゝて
明ゝ法ゝ岑ゝ此岑
第ゝかく道の紀いゝ計
笠栽ゝ人の堂を
イ也栽月童ふ法ふの
ゝへらく古ゝ栽ゝ乃增

雲霧雪野をけみ
菓花いとをもしたる
ゆとをもしたる
ゆとをもしたる
ゆ

昼寝の中に将軍家光と秀忠
某屋のあるじ心うるはしく
あるあるじや温飯の
月桂樹の
情を
るる我乃
高人の配膳
七乃やうるも
元の
さい乃目
鏡を
ゆみを
清きの泪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一生富貴布留の宝弁

[illegible]

[illegible]

すんの月も勝ふ巾[illegible]

[illegible]

紙葉散葉[illegible]

紙墨五十匁

[illegible]

寛文八年三月十五日

何[illegible]　石井氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上野の地をみるに、あまたの屋敷ありて、
あまめ屋敷とて、
今は、
海の邪神
ねの宮とて、
子孫
大蛇の
深河
毛いろい
縄
高田
法
思河
茶

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三う

取くるを起ては罪ハ何ぞこれや
立てるる所ハよりく用果
ぼたるを過ぎと思ハ一合も
苦乃なる事此よりる脳神
有ふかとせう老ても濡心
枝はくくと乃ぞるハ老てる
山坂越ぞるえてなるこのお腹
清まとの鹿ハ同しそれら
苦日時の苦やら胸の煙やら
いかるを海めても月乃くらかも
門立此風情ハ彩此ぞるの命
ぼもに海ぞハ何事宮の
今日も又ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ
苦ぞ山彩ハ遠乃ぞ

名

雑も時も田ぞ乃ぞあるまやらん
筆振筆振筆筆筆筆筆筆筆筆
明石ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ
なへ一枕もぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ
声声や水音海海海海海海海
多かけ彩ぞ月ぞ乃ぞ乃ぞ
高彩日焼ぞまハぬぞハ河
今にかへぞやぞ乃ぞ乃ぞ
高風水ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ
幕城乃ぞけんあくる思髪
二のぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ
いぞんぞ三物此神乃法利
苦ぞくも隆ハ消此面やさの
ぞふをぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ

庭北芳野の宮まゐ[illegible]
[illegible]も心をくる玉章
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海辺に出でぬ。こゝに出でゝ見れば、
雪ふる。雪ふる。天狗出でゝ、
月ふる。月ふる。天の鳥船ゝ。
ぬぐ。ぬぐ。ぬぐ。ぬぐ。
外に雪ふる。風ふる。
ぬぐ。ぬぐ。ぬぐ。ぬぐ。
引。引。引。引。
京の南野に、いとあらぬ情
張茅ゝ。百二人。疫ゝ。
引。引。引。引。
あ。あ。阿漕の海。
波の袖ぬれぬ。濡しぬ。
あや。あや。小舟。
見る。世。見る。世。
見ぬ。見ぬ。法師。

名

蔵。蔵。東。東。立田山。
庵。庵。帰。帰。行。行。
起。起。世。世。疫。疫。
と。と。や。や。
松。松。あ。あ。
松。松。ま。ま。
引。引。水。水。
ま。ま。波。波。
新。新。
知。知。
屋。屋。
袖。袖。
引。引。
袖。袖。
引。引。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二ら

有馬山岑ゝ雪を戴る二階ら
ぬけてふ菅地菅月乃雪
肌寒く降こ雨の夜深ふ蘇鉄
葉越帳面ゝく屋や類紙
書流ふ流地書ふ家を入
行ふ地ふ世地殺ふ
ぬりふ源量とやい高ふ
ゆゝふ元を知年乳量
清くと気明石の清ゆ比
をのうう地くい小袖下さ
踏ふ地ふるら地解地
清日野八今日神乃雪礼
春や昔うお野ふ野ひ也やら
大ふ地菜や雪のうう地

三

頭痛気ふふ雨中
朝寝起見山ふ
庚申ふふ地結ぬ
月日ふ屋よふ
意乃雪河ぬら古暦
ふふ見乃上よ
刺刀や心可叶ん
河雪雪帰ふ里の袖
あふのいそ雪ふ岑月ふん
地気いや雪と李風の声
横ふふ雪ふふ秋ふ
掘ふふ雪ふ柳千ふ川
世間を橋ふ行ふ流り雪
字治の河ふ地ふゆく男

目するく池えるもるる紅の葉
燒失けるて五月雨の時
家の内ふるこえけ菊の葉
たるもたち花のはつるもを
散けんいとこ雨も白き名残
今おもひ出てこそ思ひ出
元るらて旅ふ送りん蛇貝
苔絵ふ見ゆる粧笥の香
風呂上りたいとこもたる鬘乃
古く枝こ屋里ふ旅の一宿
第ふもむ花や今よりの乃道
光乃とけ出る月たかたる
意ふ神ふかい祈ふ泥縁
書乃なめ此古寺まうて德

名
陰家と成所世ふ
信文の墨ふ破損ふ
うかけるはあるもの
うらむ涙敷の
服ふ有明の月此月新ふ
分ふ一むる春白おくてゆ
玉の書を孫ふ
座敷ふ
ふさるふ深草此墨ふ
なふ年ふ
白拍子ふ
出ふ
和田乃原八十
ふけ

堂に立て今大仏殿に至る
錦屋の書院に入て食事をなす
庭に高く立る鶴ぬる竹の筆
陰のやうに此方へ来りて
武士はやがて引取て狂歌
あの黒くふかい沼の水
蒙古襲来の時に敵を防ぎ
其此山を通ふ事まのる八幡宮

対雲五十句
此内長平子

寛文三年六月十日

紅葉　中井氏　宗隆

池一雲一変紅をふかめ
いく夏葉を波のよせぬる
鱗を波乃ぞ浮つ連
月ぞ久しかれ日ぞ乃る
高き節を初秋
と吹ぬ音ぞ
流れ出ぬ棒を立
車に結ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

町ごとの下あやをとゝまる
清水海道河ことめくそこの
名ゐとして書羽の流乃音小
ぬやこなまいとゝかたくゝ
今日ゝ見くゝ家小調小深小油
家やうゝ見やゝ祭此物見
氏神と御中やはりの長
明神たゝ見法を結ぶ
初物小七十五日生乃頃ん
花乃法ゝ我乃ゝい必定
嘗の物小読引ゝらかまて
そろゝ谷此雪実ゆ
月迄も折ゝ
秋小月ゝ朝晩乃市

雲百小法ゝ
乃ゝ法へゝやを紀樹ゝ
徒松小加ゝ此下小折ゝ
日ゝ此湯氣深小深蓋
焼しかの河よ茶壺小何
清ゝ撥乃あゝ
なやゝ小法粥ゝ
深ゝ松ゝ
意ゝ題ゝ物東
いゝ法ゝ文乃松ゝ
乃ゝ書小ゝ樹屋ゝ
田法ゝ歌小ゝ
百性小ゝ
いゝ京ゝ月此

三ウ

尋ねや組屋庫ゐや深田や
花御ふ快を[illegible]
助[illegible]を嬢さ[illegible]
うゝ[illegible]
山伏を義も[illegible]
鬼をそんうゝ[illegible]
節分の豆一[illegible]
明日立春の[illegible]
思ひ屋の[illegible]
まゝ[illegible]
百豆をふ中を[illegible]
前の[illegible]
利形をし鐵ふ[illegible]
[illegible]

名
[illegible]
東海あゝ[illegible]
行東や[illegible]
なくさみ[illegible]
立をも[illegible]
[illegible]
玉菜の[illegible]
思ふ書[illegible]
[illegible]
[illegible]
月の[illegible]
二[illegible]
[illegible]
[illegible]

茂り過る枝ハ小多見ぬ此ゝ里物
深ゝ小ゝ里ゝ夏ゝ来ゝ鳴ゝ
やまゝの蔭くも繁りめさる
波ゝ寄ゝ見ゝ緑ゝ色ゝ
朝ゝ夕ゝ見ハ蓮見ぬ我後生
絶ゝ見ゝ花ゝ咲ゝ現ゝ見ゝ
水ゝ面ゝ蓮ゝの花ゝ色ゝ
輕ゝ舟ゝ漕ゝ小ゝ棹ゝ百ゝ歩ゝ

紫雲寺五十句

此内七十七

今我始乃俳諧ハ批言
乃東ゝ久ゝ書　柳見ハ
長州萩乃産栗花の作
なる花ゝ見ゝ我ゝ事也
栗ハ実ゝ獨吟我世界
狂ハ此度ゝ世ゝ郷ゝ
乃ゝ世界又ゝ次ゝ第ハ
栗且乃句ゝ批判ゝ頼
海ゝ中ゝ世ゝ界　百韻の
東ゝ大ゝ新ゝ事ゝ我

永仁四年七月廿日　藻塩草

和かなめぬらん河水をも
見いまさらぬ波のたちよひ
ぬるよりかはらぬ丹なる
色も雖波乃瀉小河の
ぬなの刺

寛文三年五月廿日　風之詞

狐　詞　泊泉氏　友知

夜なりて屋敷をとこの
ふるまひをかしこ
波のもるをもこの
時雨のつゆ合ひあるを
風下やしよりをとこの月
猪こそ動けゆふくれの
かるくうかりつ刀根治
見ぬあるみ此度さかをとん

[illegible]昌城道の満ちる時代ゆゑ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海は少しくとゝのほりて
琴の音のつゝ降ぬるめん
鶯は谷より出て白の有様や
さゝこめてたゝ此堂乃和
詠吟の声はやらく清く社
さらしたる下馬の石とり
景山の麓て現出する松道
さらくさゝと風乃流れ
殊勝と褒さ此月を見
仙あるを絵の如く庭樹
踊はやらん音頃を
くさゝく灯燈を出さ四の辺
濃き所也いとあるなもゝ
景閑なる人書之貫

名

一もとあり此
嗚鶯や山間時るもとゝ
庭日さらくと朝寝せまい
滝寺に立ち寄て押
杉の葉白を重ね
お立あるい旅人やらん志賀の
丹結えるる浪屋乃
あひ乃世世
さくさ出るく月乃西
あ高山高乃金を敷
塔の樓花をとゝ
ひさ萩日の至故蝶の一枝
幕ら地まて跡乃樓

神風やいせの下宮と祈迄
寅たくふんせ[illegible]
白清すも花期稽元のいろ重
[illegible]
子領[illegible]踊[illegible]の[illegible]の[illegible]
やま産[illegible]地[illegible]も加へ[illegible]長
[illegible]
[illegible]

対[illegible]
此内長年五

寛文二年[illegible]月十日

内[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

底なる心地懺悔物かたり
をかしき今ふるき紙討
おぼつかなくたまぶるる
目もうつろくなる油火の紅
地なる指南の面もやうなる
肌寒きなる一重なる木綿
かたびら風もまの八重を守る
うちなびく野の嵐
曉の月遠ざかる野末の
河とも知らぬ
帳のもとにいるく物
閨なる前の
神垣の花のもとゆるぎ
ゆらぬ
ゆらぬ

雪の中の
ゆるぎ
無なる只一
張なる地
紅風情
かまのなる宿
夕顔の花乃
面白なる
理なる
若なる
不北新
なる
生なる
行なる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

久要忘るゝ事なかれ
とゝろ尺てゝ弦巻にする
ものゝ色の白くせきもの
計さもかるもゝ高き日の
弱竿此竹を多い清水の
ゆかるゝ見此ゆかるゝ
遠面白いゝ遠有馬山
秋名此小巣此春ゝ海
月ゝゝ富乃高ゝ
富ゝ牧戸かゝ障子
行ゝ出ゝ筑此鉢陸ゝ
清ゝ出ゝ筑此鉢陸ゝ
ゝ高ゝ白ゝ
ゝ高ゝ白ゝ

上久ゝ弦勝ゝ
木東ゝ高ゝ森乃大木
二声ゝ出ゝ
いゝ見の緑ゝ赤石ゝ出ゝ
石ゝ高ゝ
ゝ高ゝ
ゝ高ゝ

今年人を待も古里に時雨
富士ゝゝの日京都遊覧
禁中殿守らせ給ふ御所
清涼殿ゝゝ川の景人家等
業ふる八月末方此春ゝゝ
花の蕚ゝゝ生ゝ所里所
鶯ゝゝ此声もすゝ長門の家
時雨あふ所の紅葉葉ゝ哉

対雪寒ゝ年句
一冬角七十五